

江戸川区立日光林間学校の放射線測定を求める陳情

(文教委員会付託)

受理番号 第104号

受理年月日 平成24年9月5日

付託年月日 平成24年9月25日

陳情者
.

陳情原文 日光林間学校についての放射線測定は、震災から1年2カ月も経った平成24年5月17日に、教育委員会学務課による個人用放射線測定器DoseRAE2(ドーズレイ2)での簡単な測定1回分が区のホームページ上で公開されているだけです。

ここで使用したDoseRAE2は、個人用電子放射線検出器であり、震災直後で線量計が不足していた時期と異なり、区は高性能なTCS-172Bなどを保有しているこの時期にDoseRAE2による計測だけと不信感を招いています。

比べて区内での放射線対応は、

- (1) 篠崎公園に東京都健康安全研究センターモニタリングポストがあります。
- (2) 平成23年6月27、28日と測定器が不足していた時期ですら、DoseRAE2により小・中学校、保育園、幼稚園、公園など19地点で高さ5cm及び1mの計測がされています。
- (3) 平成23年12月5日から8日まで、高性能なシンチレーションサーベイメータTCS-172B日立アロカメディカル株式会社製での計測が地表面から5cm及び1mの計測がされています。

以上のように、平成23年度に実施された2機種による区内の測定方法と比べても、林間学校での計測は、5地点1mの高さだけと非常に簡素な計測です。

また、環境省のガイドラインに則り5地点の計測がされたと思いますが、東北内陸部の福島市から、郡山、那須、日光へと、風向きにより引き起こされた高汚染地帯が広がっている事は多くの報道でご存知のはずです。最低限の5地点しか計測していないのは、子供たちの使用する施設の安全性を確認すると言う意識が欠落しているからであり、その上、計測地点の見取り図なども無くて文字情報のみと、施設のどの場所を計測されたのか情報が不足しています。

同地区で極めて近所に林間学校を所有している足立区では、平成24年5月25日、26日及び6月8日に、放射能の除染作業を実施完了している上に、除染作業実施前後の放射線量の変化を10地点において比較したものをホームページで公開しています。全てにおいて江戸川区より敏速に行われています。

世田谷区では、フクイチからの距離が日光よりも遠い群馬県川場村の区立施設へ移動教室を実施していますが、今春に施設を除染した上で実施しています。それでも半分近い不参加者が出る学校もでていたり、住民意思の差もありますが各自治体はいろいろと対応をされています。

(裏面に続く)

そもそも日光市は「汚染状況重点調査地域」に指定され、当の日光市では小・中学校、保育園、幼稚園計 82 施設が国の補助基準を関係無しに除染が開始されています。

その他、子供たちが長時間生活する施設、18 歳以下の子供のいる世帯の住宅全てが、除染対象とまで言っています。

早いとは決して言えませんが、日光市が子供を中心として考え、動き出した事に比べ、江戸川区・区教育委員会の対応はあまりにも無策であります。

つきましては、江戸川区立日光林間学校を運営するにあたり、子供たちの放射線被曝の低減を目指す指標として下記に挙げる対策を実施頂けるよう求めます。

記

- 1 区内の計測と同様に、高性能機種による 1 地点 2 種の高さで計測を実施すること。
- 2 計測地点を施設に合わせて 10 地点以上に増やすこと。
- 3 区外施設の塩沢江戸川荘、穂高荘も含めて、定点観測し比較をすること。